

# 災害危機管理演習について

頻発する自然災害に対する減災への取り組みが盛んに行われていますが、その中でも災害危機管理演習について紹介します。

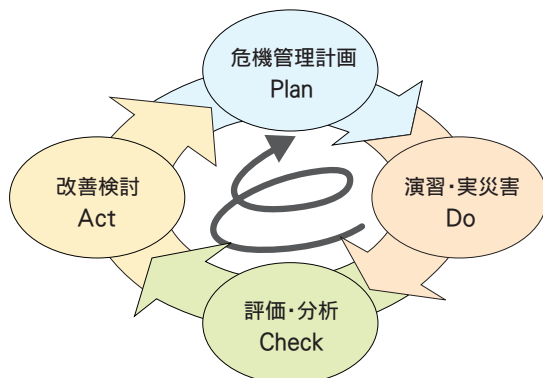
## はじめに

近年、ゲリラ型豪雨の来襲など、水災の被害が頻発しています。また、アメリカでは、ハリケーン「カトリーナ」による甚大な災害が起きました。また、中越地震(2004年)や福岡県西方沖地震(2005年)など、地震による被害も発生しています。

洪水や地震などの自然災害は、時と場所を選ばずに発生するため、完全に防ぐことはできません。しかし、自然災害による被害を小さくすることは可能です。これを「減災」と呼びます。

被害を最小にするための減災の努力は、ハード的な対策とソフト的な対策を一体として行う必要があります。特に、ソフト的な対策は、公助である国や自治体の防災・減災対策だけによるのではなく、地域で助け合う共助や、個々が危機意識をもって自分の命は自分で守るとの自助の自立を推進するような、総合的な姿が理想です。

また、減災のためには、災害対策の行動計画やわかりやすい災害対処マニュアルを事前に作成(Plan)して、災害に備えておく必要があります。また、これらの行動計画やマニュアルが災害時に有効に機能するのかどうかを検証するために、演習(訓練)を行い(Do)、演習の結果を評価・分析(Check)して、計画等の改善検討(Act)を行い、危機管理能力をスパイラルアップしていくことが重要です。



災害危機管理能力のスパイラルアップ

演習の必要性は言うまでもありませんが、実災害を頻繁に体験することは不可能なので、演習によって災害を模擬体験したり、災害が起きたことを想像できる演習は、その対策や行動計画を検討するうえで危機管理のかなめとも言えます。

また、演習でできないことは、本番(実災害時)にできるはずがないと言われています。ここでは、災害危機管理演習に関しての取り組みを紹介します。

## 災害危機管理演習の実例

演習を大きく分類すると、2種類に分けることができます。

一つは、実動訓練です。実際に人や災害対策車両を動かして、災害対策の手順の習得を目的に行う演習です。あらかじめ演習シナリオが決められ、そのシナリオ通りに行動するものです。消火器を実際に操作する消火訓練や、非常階段を使った避難訓練などが実動訓練の身近な事例です。

写真1～4は、地震の後に超大型台風が接近しているとの複合型災害の想定で、2006年5月に行われた実動演習の様子です。これは、全国で初となった複合型災害の実動演習で、愛知県、名古屋市、弥富市、港湾・空港管理者、医療機関、電力・ガス会社、陸上自衛隊、海上保安本部、国土交通省等から、24機関約600人が参加した大規模なものでした。

当社は、この演習に際して、演習シナリオの作成や会場設営計画などの検討を支援・実施しました。



写真1 道路啓開訓練



写真2 船舶火災消火訓練



写真3 ヘリによる情報提供訓練(左)と  
クレーンによる大型土嚢設置訓練(右)

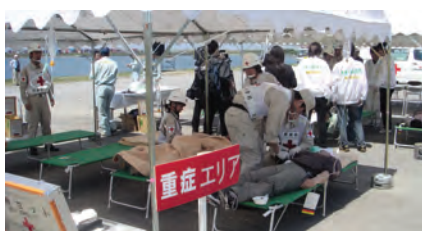


写真4 トリアージ\*訓練

\* 災害医療において、傷病者を重症度と緊急性によって分類し、搬送や治療の優先順位を決定すること。

もう一つは、図上演習です。実際に災害が起きたことを想定し、何をなすべきかを判断し、情報連絡等を行う(または行ったこととみなす)机上の演習です。ある場面を想定して、職員に一つの役割を演じさせるロールプレイング方式では、演習者に演習シナリオがあらかじめ示されないため、意思決定や判断能力を養う有効な演習方式として着目されています。また、防災対策について地図を使って議論を進めるDIG<sup>注)</sup>という図上演習も、各地で盛んに開催されています。

図上演習は、写真5に示すように、小規模な演習としても実施できます。例えば、班単独の演習や家族単位でも行えるのが特徴です。当社は、このような図上演習についても、演習の企画・運営などの支援を行うことが可能です。



写真5 図上演習の例

## ワークショップ型簡易図上演習の提案

災害の危機管理対策については、明確で単純な答えを出すことは困難です。しかし、何らかの対策を考え、小さなことでも事前対策や災害時にスムーズな活動を実行できるようにすべきです。そのような点から、災害に関わる人が一緒に考え、検討していくワークショップ方式を用いた演習が有効であると考えています。

当社は、下図に示すようなワークショップ方式を取り入れた図上演習の簡易版を企画・運営することを提案します。また、この図上演習で得られた行動計画や行動フロー、早期に行うべき事前対策項目などをとりまとめ、演習成果として報告することが可能です。



### コーディネーターの役割

- ・ 演習前にオリエンテーションを実施
- ・ 場面を何回かに分けて進行
- ・ なすべき項目がでない場合は、回答例を出す
- ・ 未解決事項は記録しておき、長時間討論しない
- ・ 留意点の提案や意見を再整理する

### 記録員の役割

- ・ 場面ごとに回答内容、留意点、意見を記録及び整理する

注) Disaster Imagination Gateの略。例として、静岡県地震防災センターホームページを参照。

<http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/dig/index.htm>

### 【参考文献】

『災害時の危機管理訓練 ロールプレイングマニュアルBOOK』  
(災害危機管理研究会編,2001)